

平成28年度入院児童生徒等への教育保障体制整備事業(神奈川県)

実施時期：平成28年8月24日～平成29年3月31日

事業実施前の主な現状と課題

《現状》

- ①指定の特別支援学校に在学している全ての児童生徒は入院している状況
- ②病棟から教室に通学できる児童生徒は同学年の小集団による授業を実施
- ③病状等により病棟から出られない児童生徒は病棟内の学習室やベッドサイドにおける個別学習を実施

《課題》

- ①'②'③'病棟内学習室や訪問指導教室は児童生徒数が少なく同一学年での学習が難しく、同学年の児童生徒とのかかわりが少なく、学習の遅れや病気に対する不安や孤独を抱えていること

本事業を踏まえて行った主な対策

- ①児童生徒との学びあいの機会を確保し、病弱教育の充実を図るため、テレビ会議システムを導入
- ②遠距離の病院については異なるネットワーク環境であった。そのため、事業に係るプロジェクトチームを設置し、医師、事業担当者、ICT推進担当がネットワーク環境を整えるために協議。
- ③②の取組を基にそれぞれの病院の状況に応じたネットワーク環境を整え、モニターやマイク、スピーカー等のICT機器の整備を進めた。
- ④テレビ会議システムを活用した授業を実施するうえで、学校が実践記録の様式を作成し、それに基づいて授業の検討を重ねた。

主な事業の成果

- ①'②'③'各病院との調整により、異なるネットワーク環境においてテレビ会議システムを活用した「つなぐ授業」を実施することができるようになった。
- ①'②'③'④'モニターやマイク、スピーカー等の機器を整備し、日常的にシステムを活用した授業に取り組むことができる環境が整った。
- ①'②'③' 2つの病棟学習室をテレビ会議システムでつなぎ、毎日朝の会を行うことにより、同じ学校の仲間としての意識を高めることができた。
- ①'②'③'ベッドサイドで学習する児童生徒において映像で相手とリアルタイムで交流できるようになり、孤独感や病気に対する不安感を軽減させることにつながった。
- ①'②'③'距離の離れた訪問指導教室については、本校の行事(始業式、終業式等)を中継することにより、同じ学校で治療しながら学んでいる仲間がいることに気付かせることなどの意識の変容が見られた。

主な事業実施後の課題

- ・テレビ会議システムを活用した授業の教育的効果のより一層の検証が必要
- ・児童生徒の意見を授業にフィードバックし、ネットワークを介して児童生徒が「わかる、できる」授業のための支援方法を整理
- ・ネットワーク環境を整え、機器を整備したが、技術的な面で不具合が生じている部分があるため、技術的な課題について検証が必要